

## インド準備銀行が臨時会合で追加利下げを決定

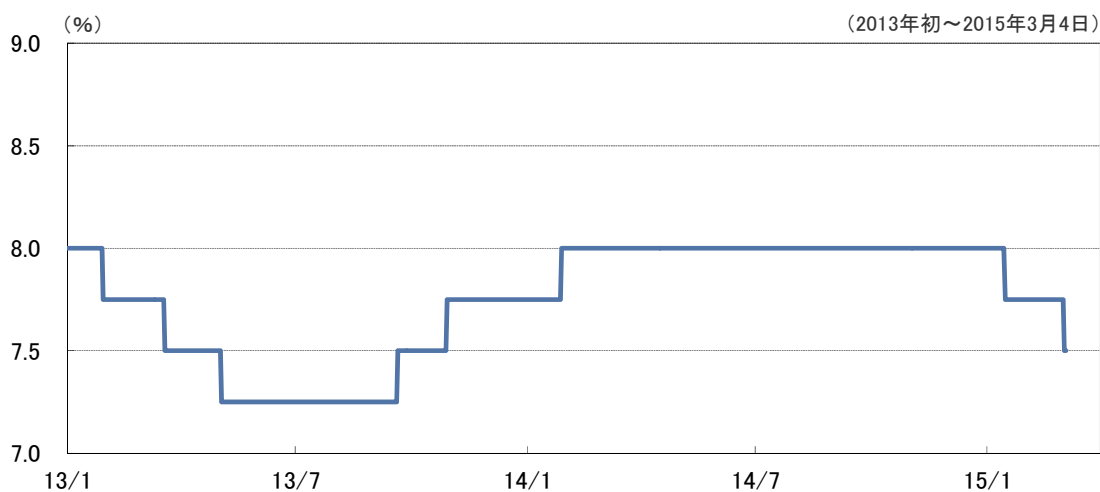
2015年3月4日

### <臨時利下げの背景>

RBI(インド準備銀行)は3月4日(現地、以下同様)、臨時的に政策金利を0.25%ポイント引き下げ7.50%にしました。利下げの理由は、声明文によると、インフレ率が鈍化しRBIの目標レンジ内での推移が確認されたこと、景気は回復基調にあるものの生産活動や貸出動向などはまだぜい弱さが残るため、インフレ鈍化見通しが優勢なこと、最後に2月28日に発表された来年度予算案で政府が財政構造の質的な改善に取り組むことが確認されたこと、が挙げられています。

また今回の利下げが1月の利下げと同様に臨時的に行われた理由は、臨時利下げが来年度のインフレ目標(4%±2%)を達成するのと整合的な政策対応であるほか、次回定例会合(4月7日開催予定)までには時間があり、その間の外部環境や経済指標などによって市場が過度に金融政策の先行きを織り込むことを回避したかった模様です。

### 政策金利の推移



(出所)ブルームバーグより大和投資信託作成

(今後の見通しについては次頁をご覧ください。)

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

## <今後の見通し>

豊富な人口を背景に巨大な国内市場を有するインドは、中長期的な経済発展が期待されています。昨年5月の総選挙でBJP(インド人民党)による単独政権が誕生して以降、経済政策に実績のあるナレンドラ・モディ首相は、燃料補助金の削減などを通じた財政健全化を目指しながら、外資企業の出資緩和などの規制緩和や構造改革を進めています。先月末には来年度予算案が発表されました。政府は短期的な景気動向に配慮し公共投資に手厚く予算を配分したほか、法人税率の引き下げや全国一律のサービス・物品税の導入を目指す方針などを盛り込みました。この結果、財政収支目標は従前の▲3.6%から▲3.9%へ下方修正されましたが、市場からは現実的な修正であり、質の高い予算案と評価されています。

こうした政府の取り組みをRBIは高く評価しており、政府と足並みを揃えて中長期的なインド経済の発展を金融面から強力にサポートしています。安定的な金融政策は構造改革や規制緩和を推進する上で重要な要素ですが、足元では原油価格の下落によってインフレ圧力が低下し、金融政策の自由度が高まっていると考えられます。今後の経済環境次第で追加金融緩和も想定されます。

為替市場でも政府やRBIの取り組みが好感されており、インド・ルピーは相対的に堅調に推移しています。米国が金利正常化に向かう局面などでは新興国通貨安になりやすく、インド・ルピーにとっても短期的な下落リスクがあります。しかし、政府とRBIは通貨下落に対して様々な政策対応が可能であるほか、インドの積極的な成長戦略とそれを支える金融緩和、また中長期的なインド経済の発展期待などにより、底堅く推移すると思われれます。

### インド・ルピーの推移



(出所)ブルームバーグより大和投資信託作成

以上

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。